



2021 年度版 交通事故の実態

2020 年度の事故発生状況
(2020.04 ~ 2021.03)



神奈川県自動車交通共済協同組合

2021 年度版「交通事故の実態」の発刊にあたって

当組合は、交通事故の防止を最重要課題として取り組んでいます。

2020 年度は組合員の交通事故の発生実態を踏まえ、交通事故防止重点項目を掲げ、コメンタリー運転の実践を推進し、組合員の理解と協力のもと、交通事故の防止に向けた取り組みを行いました。

ここに、2021 年度版「交通事故の実態」として、2020 年度の交通事故の発生状況を統計資料として公表いたします。

組合員の皆様におかれましては、一件でも交通事故を減少させるため、事業所の交通事故防止活動にご活用いただければ幸いです。

2020 年度交通事故防止重点項目

- 交差点事故の根絶
- 追突事故の根絶
- 構内事故の根絶

データの分類は、各年度ごとに「全事故」や「共済種目別」に行っています。

- 「全事故」とは、各期間内に受け付けた事故件数
- 「共済種目別」とは、共済契約種目別に事故処理をした件数

「支払共済金」には、確定前の支払備金も含んでいます。

目次

1. 交通事故発生状況（全事故）.....1 頁	5. 過去5年間における高額賠償事案の事故発生概況.....15 頁
(1) 事故発生件数と事故率（2016～2020年度）	(1) 対人共済
(2) 月別事故発生件数（2020年度）	① 高額賠償事案（1,000万円以上）の事故発生状況
(3) 類型別事故発生件数（2020年度）	② 道路形状別の事故発生状況
(4) 道路形状別事故発生件数（2020年度）	③ 原因別の事故発生状況
(5) 発生時間帯別事故発生件数（2020年度）	④ 類型別の事故発生状況
(6) 運転者年齢層別事故発生件数（2020年度）	(2) 対物共済
(7) 原因別事故発生件数（2020年度）	① 高額賠償事案（200万円以上）の事故発生状況
2. 共済種目別事故発生状況.....5 頁	② 道路形状別の事故発生状況
(1) 共済種目別事故発生件数・事故率	③ 原因別の事故発生状況
(2) 対人共済被害者数（死亡・後遺障害・傷害）	④ 類型別の事故発生状況
(3) 対物共済類型別件数	6. 過去5年間における運転者年齢層別の事故発生状況（全事故）.....20 頁
3. 交通事故防止重点項目に係る事故発生状況(2020年度).....6 頁	(1) 運転者年齢層別の道路形状別事故発生状況
(1) 交差点事故の実態	(2) 運転者年齢層別の類型別事故発生状況
① 交差点事故の類型別事故状況（全事故）	(3) 運転者年齢層別の時間帯別事故発生状況
② 交差点事故の原因別事故状況（全事故）	7. 2020年度交通事故防止強化月の事故発生状況.....23 頁
③ 交差点事故（対人・対物共済）の支払共済金	(1) 月別事故発生件数
(2) 追突事故の実態	① 全事故
① 追突事故の発生場所別と事故原因（全事故）	② 対人共済
② 追突事故（対人・対物共済）の支払共済金	③ 対物共済
(3) 構内事故の実態	(2) 道路形状別事故発生割合（全事故）
① 構内事故の類型別事故状況	(3) 運転者年齢層別事故発生割合（全事故）
② 構内事故の原因別事故状況	(4) 類型別事故発生割合（全事故）
③ 構内事故の支払共済金	(5) 原因別事故発生割合（全事故）
(4) 交通弱者を被害者とする事故の実態（対人共済）	8. 交協連傘下15組合の2020年度事故発生状況.....26 頁
① 交通弱者との道路形状別事故状況	(1) 事故発生状況（対人・対物事故）
② 交通弱者との原因別事故状況	(2) 原因別事故発生状況（対人事故）
③ 交通弱者被害者態様別（死亡・後遺障害・傷害）の支払共済金	(3) 類型別事故発生状況（対人事故）
④ 交通弱者年齢層と事故発生場所	(4) 運転者年齢層別事故発生状況（対人事故）
⑤ 交通弱者被害者類型・態様別	
4. 過去5年間における発生事故に係る支払共済金.....15 頁	

1. 交通事故発生状況（全事故）

(1) 事故発生件数と事故率（2016～2020年度）

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、外出自粛要請が出されたため、全国の交通事故統計で交通事故発生件数は減少となっており、当組合においても、事故発生件数、事故率ともに2016年度以降最も少なくなっています。



※事故率は、100両当りの1年間の事故発生割合（件数）を示します。

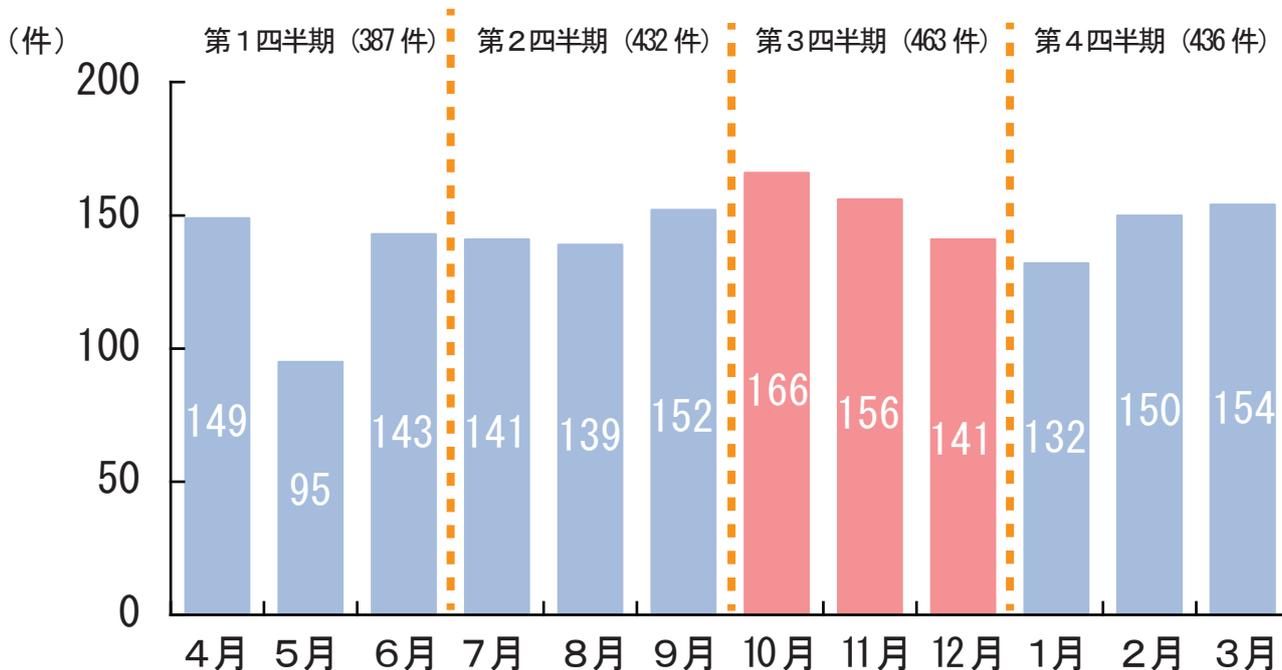
共済種目別事故発生件数

年度	2016	2017	2018	2019	2020
対人	447	426	412	381	316
搭傷	10	9	7	5	6
対物	1,645	1,489	1,602	1,610	1,559
車両	118	122	112	112	102
合計	2,220	2,046	2,133	2,108	1,983
全事故件数	1,843	1,719	1,802	1,803	1,718

※全事故の発生件数は、1件の事故につき複数共済種目での受付を含んでいます。また、各年度の決算時の件数を示します。

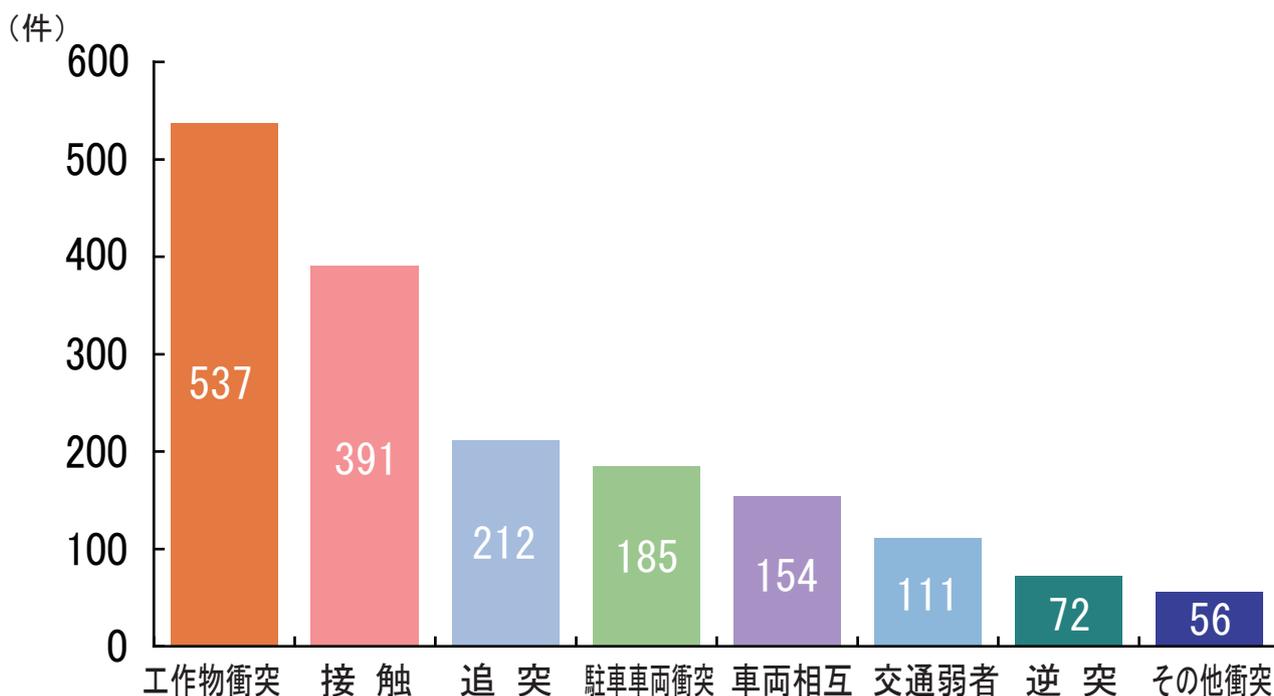
(2) 月別事故発生件数 (2020年度)

月別では、10月が最も多く、四半期別にみても第3四半期(10月～12月)が463件で、前年度比11件増加しています。



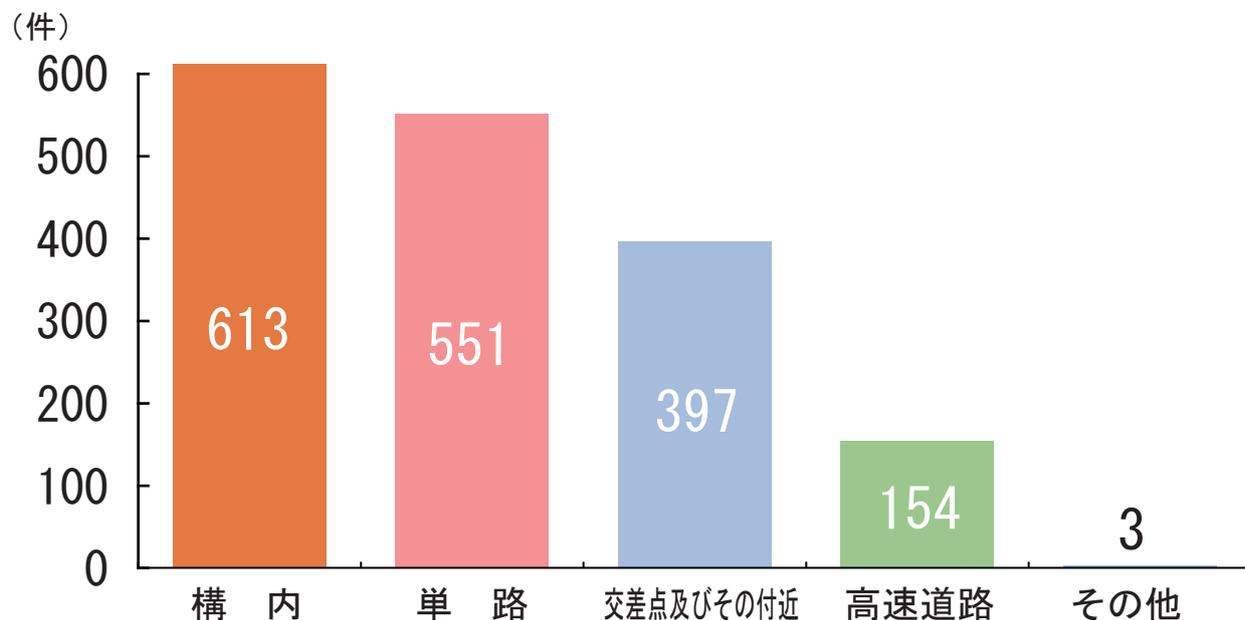
(3) 類型別事故発生件数 (2020年度)

類型別では、工作物への衝突が最も多く、全件数1,718件のうち31.3% (537件) となっていますが、交通事故防止重点項目で掲げている追突では、前年度比28.1% (83件) と大幅の減少となりました。



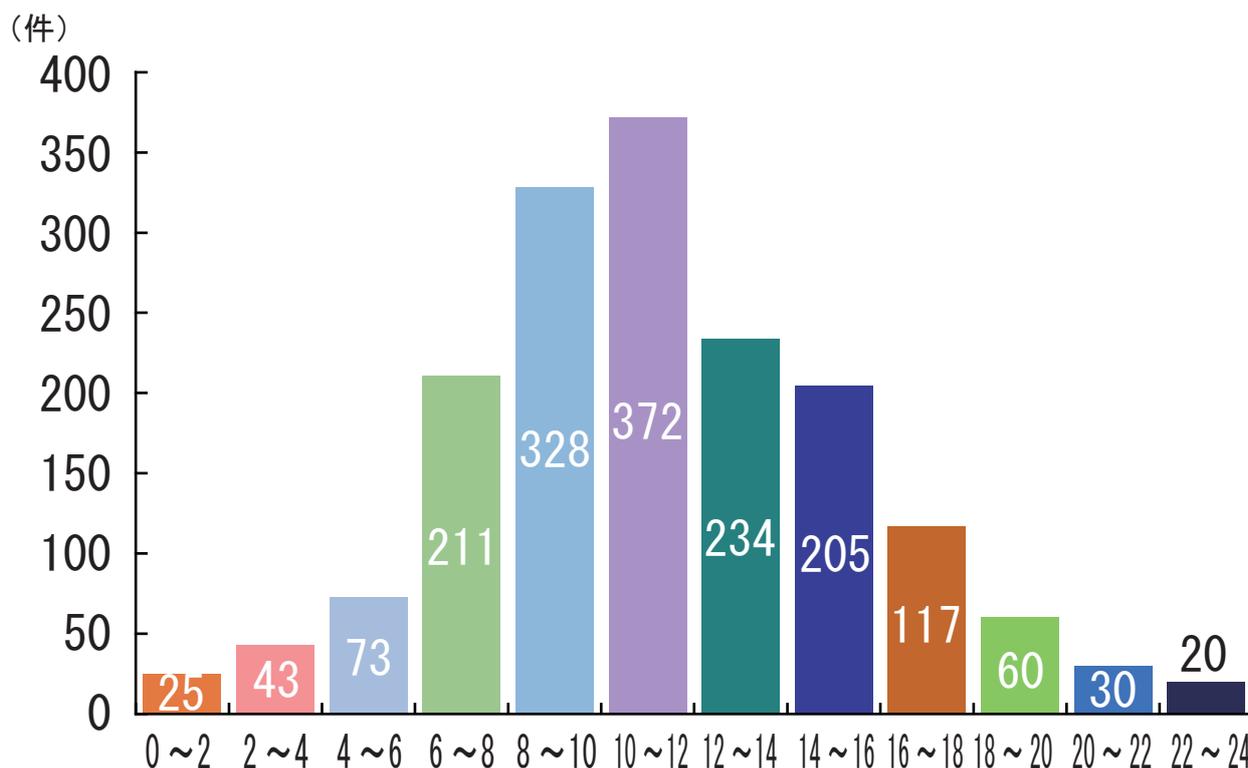
(4) 道路形状別事故発生件数 (2020年度)

道路形状別では、交通事故防止重点項目に掲げている構内は前年度比で6.0%(39件)、交差点及びその付近は前年度比で3.4%(14件)減少しました。



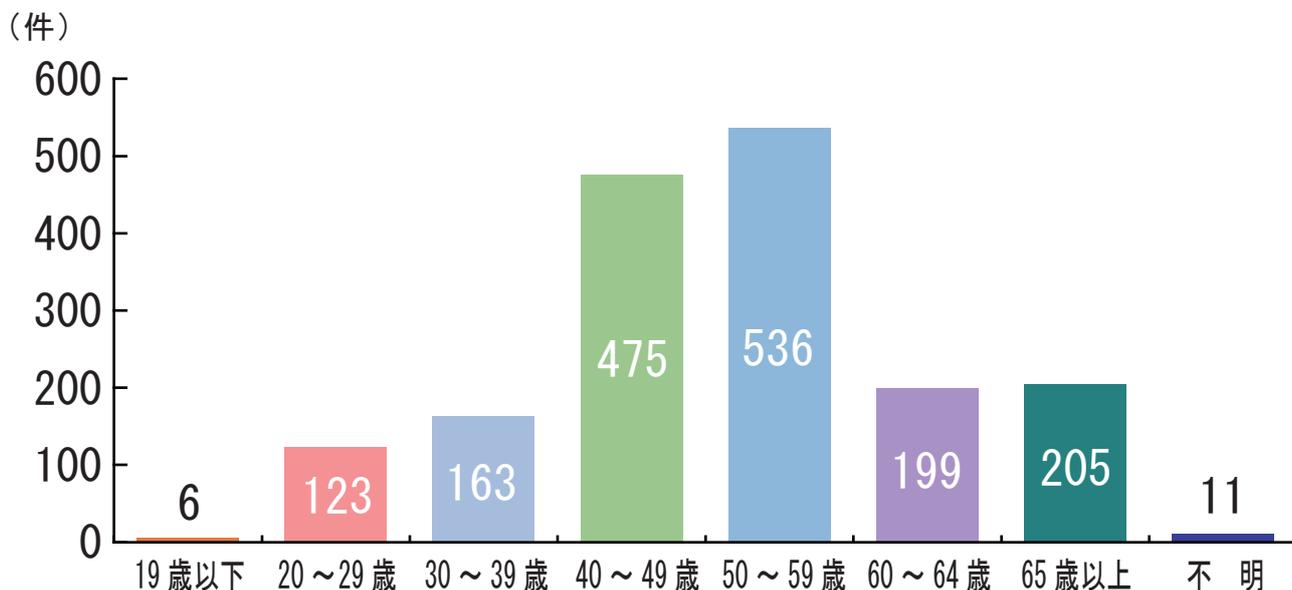
(5) 発生時間帯別事故発生件数 (2020年度)

発生時間帯別では、8時から14時までの時間帯が多く、全体の54.4%を占めており、特に10時から12時の時間帯に最も多く発生しています。



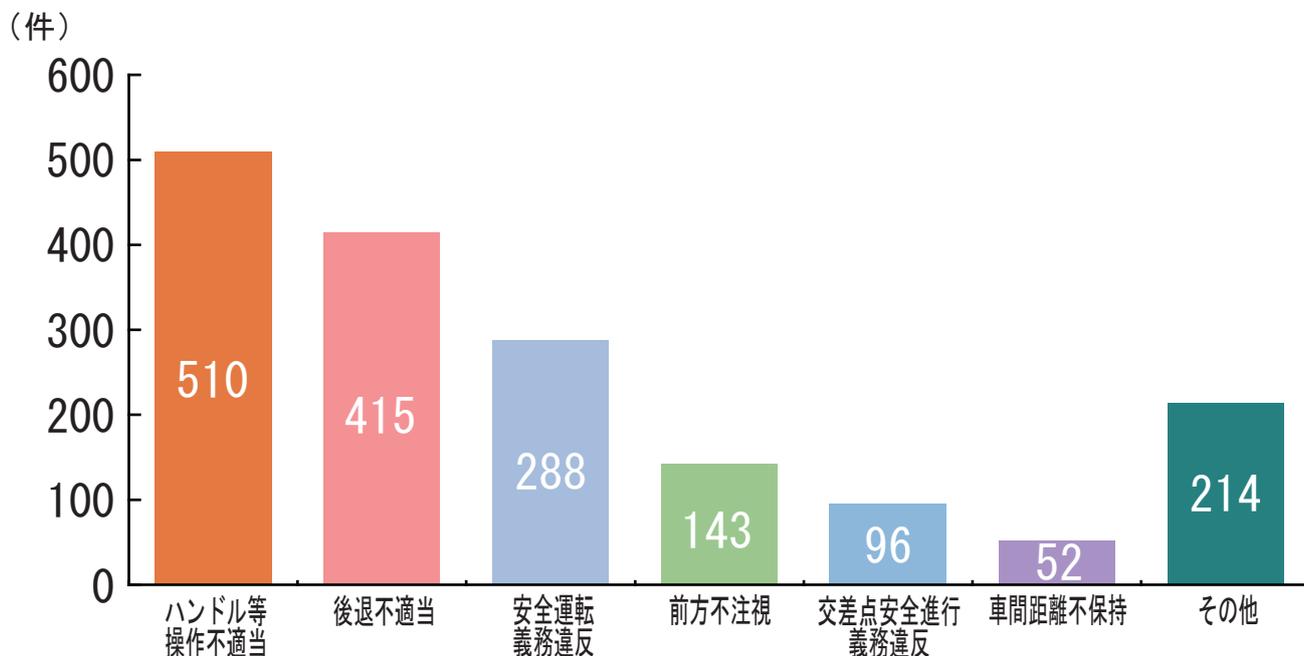
(6) 運転者年齢層別事故発生件数 (2020年度)

運転者年齢層別では、50歳代が536件と最も多く、次いで40歳代が475件となっており、合わせて全体の58.8%を占めました。



(7) 原因別事故発生件数 (2020年度)

原因別では、ハンドル等操作不適當が最も多く、次いで後退不適當の順に多く発生しています。



道路交通法では

- ◇安全運転義務違反とは、他人に危害を及ぼさないような速度と方法で運転しなければならないという運転者の義務に違反したものをいいます。
- ◇交差点安全進行義務違反とは、交差点を通過する際、交差点の通行車両及び横断歩行者に注意し、安全な速度と方法で進行しなければならないという運転者の義務に違反したものをいいます。

2. 共済種目別事故発生状況

(1) 共済種目別事故発生件数・事故率

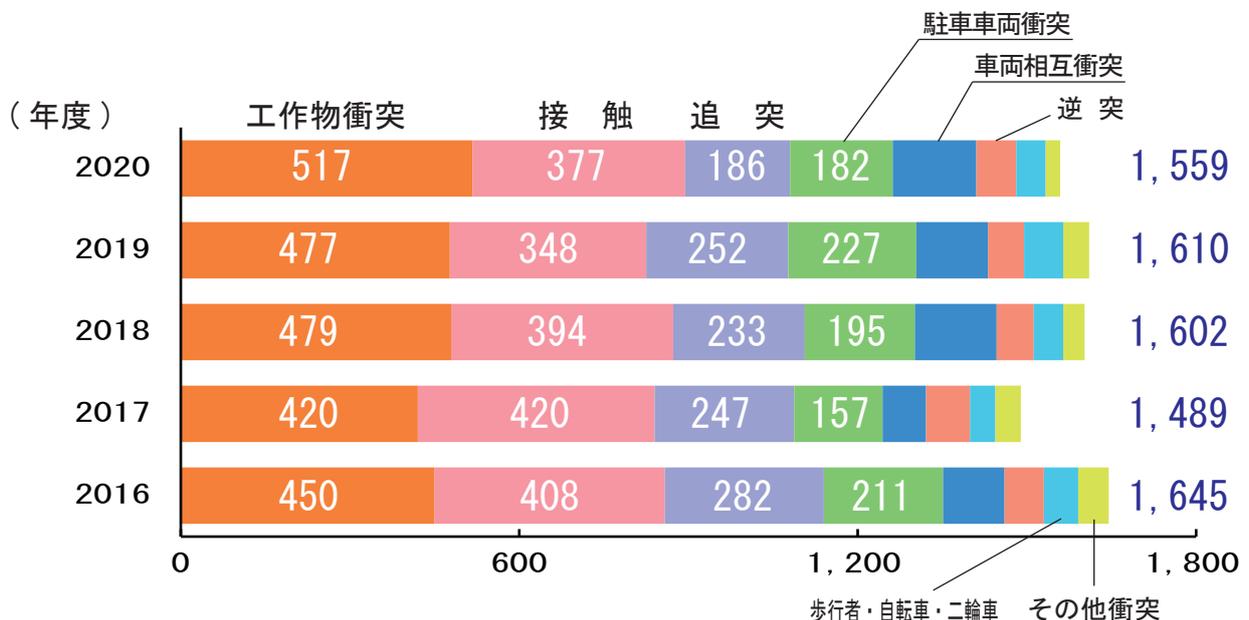
共済種目別	年度	2016	2017	2018	2019	2020
対人	発生件数(件)	447	426	412	381	316
	死者数(人)	7	5	7	5	1
	傷者数(人)	592	525	527	473	384
	事故率(件)	2.64	2.52	2.42	2.25	1.84
搭傷	発生件数(件)	10	9	7	5	6
	事故率(件)	0.17	0.15	0.11	0.07	0.09
対物	発生件数(件)	1,645	1,489	1,602	1,610	1,559
	事故率(件)	12.29	11.22	11.96	11.86	11.18
車両	発生件数(件)	118	122	112	112	102
	事故率(件)	6.66	6.72	5.93	5.60	4.66

(2) 対人共済被害者数(死亡・後遺障害・傷害)

区分	年度	2016	2017	2018	2019	2020
① 死亡(人)		7	5	7	5	1
② 後遺障害(人)		27	33	32	28	29
③ 傷害(人)		565	492	495	445	355
④ 合計(人)		599	530	534	478	385
⑤ ①+②(人)		34	38	39	33	30
⑥ ⑤の④に対する割合(%)		5.7	7.2	7.3	6.9	7.8

(3) 対物共済類型別

対物事故による追突事故は過去5年間で最も少なく、前年度比で26.2%(66件)減少しました。工作物衝突は過去5年間で最も多く、前年度比で8.4%(40件)増加しています。

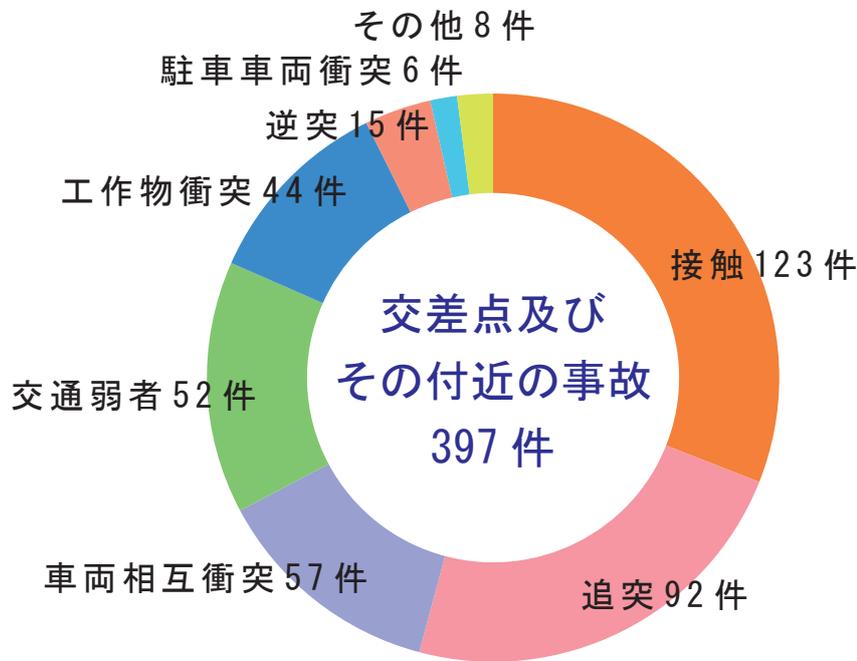


3. 交通事故防止重点項目に係る事故発生状況(2020年度)

(1) 交差点事故の実態

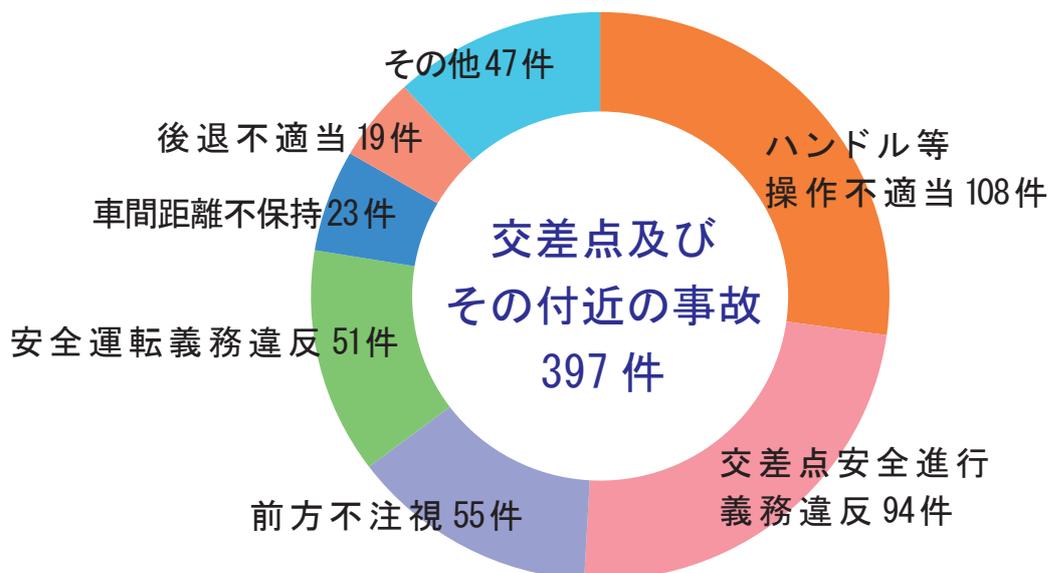
① 交差点事故の類型別事故状況(全事故)

交差点事故の類型別では、接触事故と追突事故で54.2%と全体の半数を占めています。



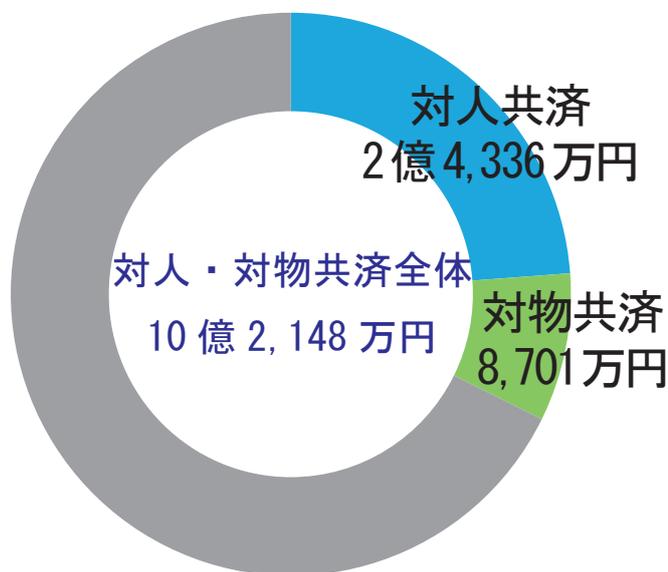
② 交差点事故の原因別事故状況(全事故)

交差点事故の原因別では、ハンドル等操作不適當および交差点安全進行義務違反が主な原因となっています。



③ 交差点事故（対人・対物共済）の支払共済金

2020年度の交差点及びその付近の事故による支払共済金は、対人共済2億4,336万円、対物共済は8,701万円、総額で3億3,037万円となり、支払共済金全体の32.3%にあたります。



交差点事故防止のワンポイントアドバイス

交差点での事故原因は、ハンドル等操作不適當、交差点安全進行義務違反が主な原因となっています。車・人が混在する交差点では、コメントリー運転を実践して確実な安全確認を行うことが大切です。

1. 一時停止と安全確認

交差点は車と歩行者、自転車等が混在する場所です。歩行者、自転車を発見したら停止できる速度に減速し、確実な一時停止と周囲の安全確認をしてから通行してください。

2. かもしれない運転の実践

信号の変わり目の進入など、予想外の行動を相手方がすることがあります。来ないだろうの「だろう運転」から、来るかもしれないの「かもしれない運転」を日頃から実践してください。

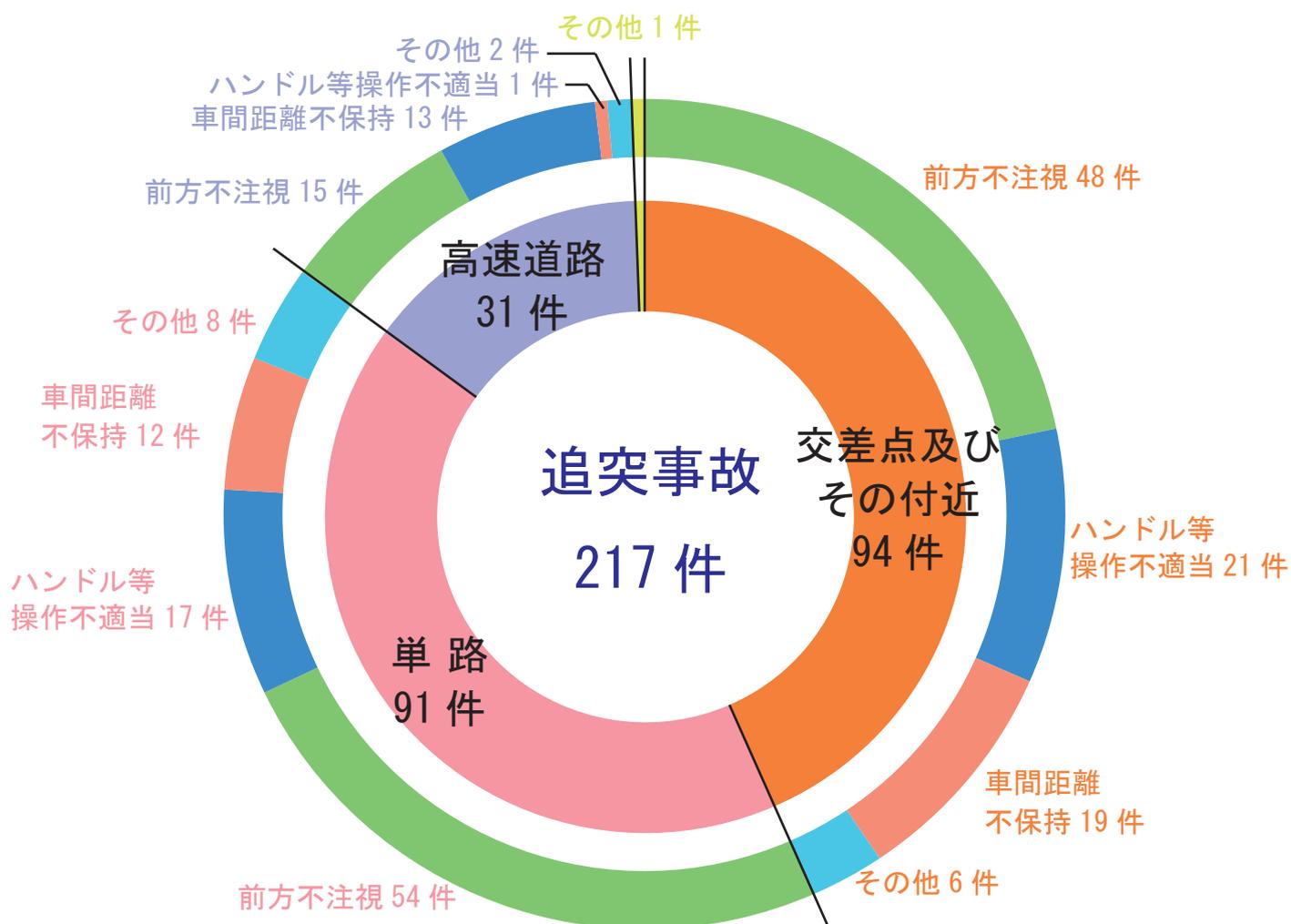
3. コメントリー運転の実践に合わせ右折時の対向車（二輪車）に注意

渋滞の切れ目を右折するときは、対向車の陰から走行して来る二輪車に注意し、「二輪車注意」・「二輪車停止」などと声に出して、二輪車の有無をしっかりと確認しましょう。

(2) 追突事故の実態

① 追突事故の発生場所別と事故原因（全事故）

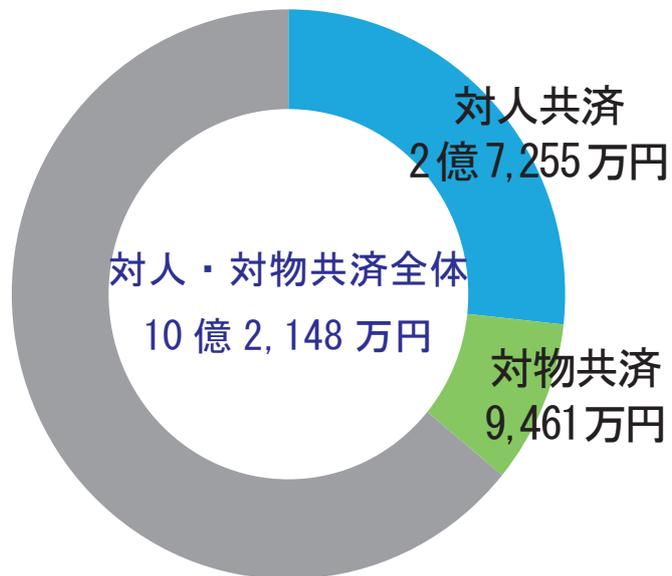
追突事故は、前方不注意が主な原因となっており、すべての道路形状で約半数を占めています。



※追突事故217件には、交通弱者である二輪車への追突5件を含みます。

② 追突事故（対人・対物共済）の支払共済金

2020年度の追突事故による支払共済金は、対人共済2億7,255万円、対物共済9,461万円、総額で3億6,716万円となり、支払共済金全体の約35.9%にあたります。



追突事故防止のワンポイントアドバイス

追突事故の原因のひとつとして、脇見等により前方車両の発見が遅れ、気が付いてからブレーキを踏んだが間に合わずに追突するケースがあります。運転中は運転に集中し、前方を広く「視る」ことが大切です。

1. 脇見につながる行為に注意

渋滞中など速度が出ていない時は、気の緩みから前方不注視になりがちです。運転中は、前車をはじめ周囲の動向に十分注意してください。

2. 運転中のスマートフォン・携帯電話の使用は厳禁

運転中のスマートフォンや携帯電話の使用は事故につながる危険な行為です。スマートフォンや携帯電話を使用する際は、交通の妨げにならない安全な場所に停車してから行いましょう。

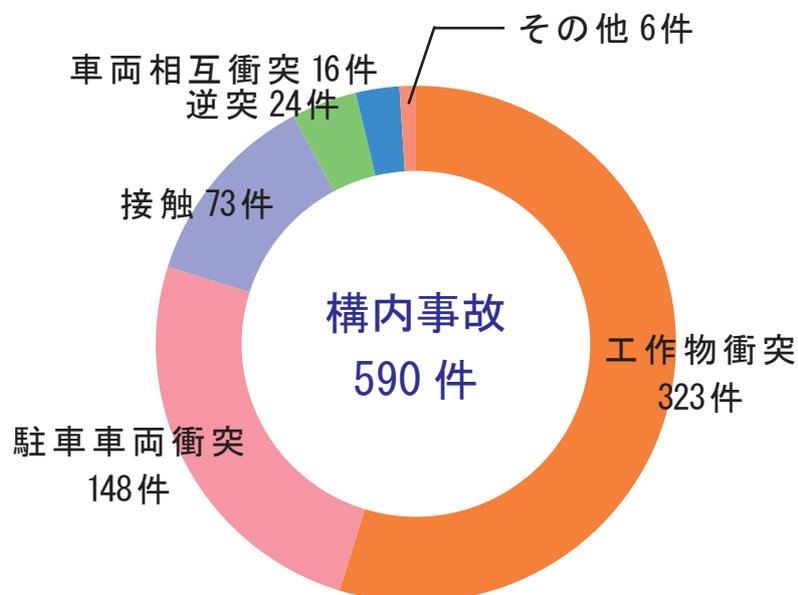
3. コメンタリー運転の実践で事故防止

「信号よし」・「前方よし」・「前車発進よし」・「車間距離注意」などと声に出して、自分の目と耳と声で安全確認を心掛けましょう。

(3) 構内事故の実態（対物共済）

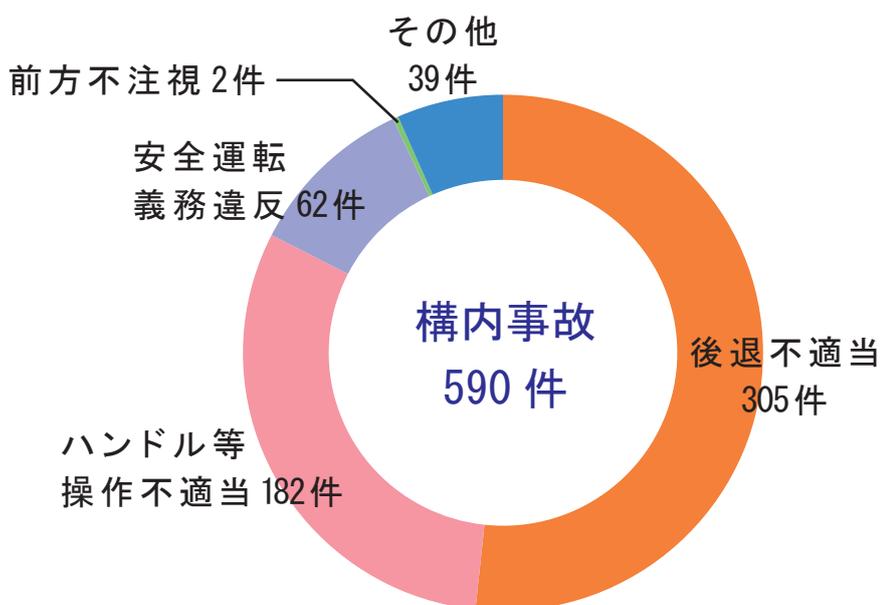
① 構内事故の類型別事故状況

構内事故の類型別では、工作物への衝突事故が323件発生と最も多く、構内事故全体の54.7%を占めています。



② 構内事故の原因別事故状況

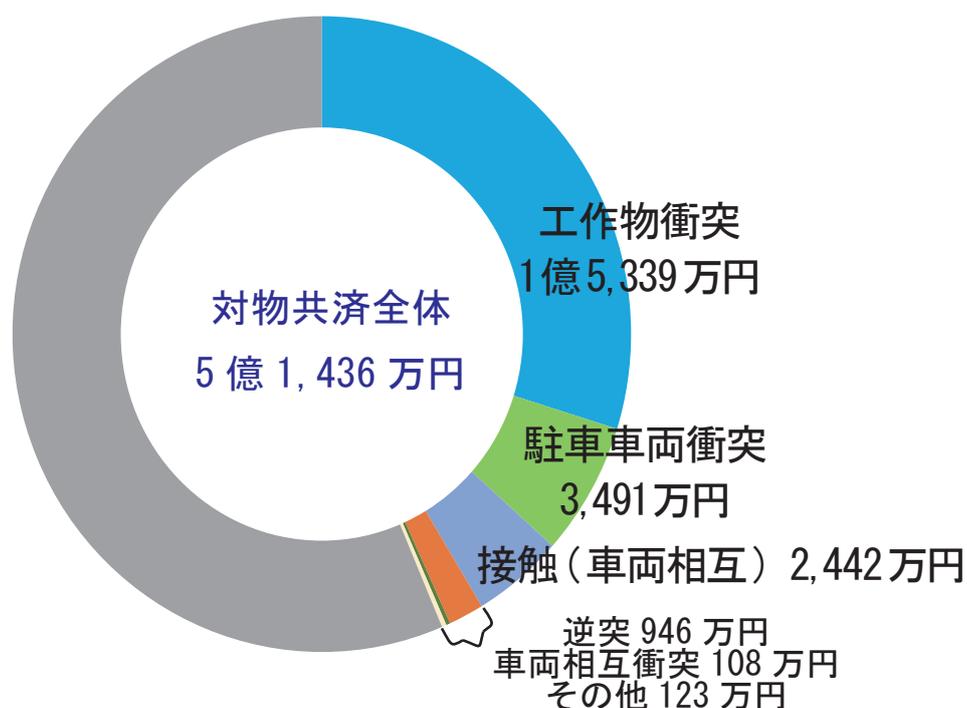
構内事故の原因別では、後方に対する安全確認が不十分な後退不適當が305件と51.7%を占めています。



③ 構内事故の支払共済金

2020年度の構内事故による支払共済金は、総額で2億2,449万円となり、そのうち工作物への衝突事故が1億5,339万円と構内事故による支払共済金の68.3%を占めています。

また、構内事故による支払共済金は、対物支払共済金全体の43.6%にあたります。



構内事故防止のワンポイントアドバイス

構内の事故では、「いつもの構内だから大丈夫といった気の緩み」が事故の大きな要因となっています。慣れた構内ほど油断しないことが大切です。

1. 後退時の安全確認の徹底

ミラーやバックカメラには死角があります。後退時は下車して自分の目で周囲の安全確認をしてください。

2. 確実な運転操作

通り慣れた構内であっても油断せず、落ち着いて確実な運転操作を心掛けてください。

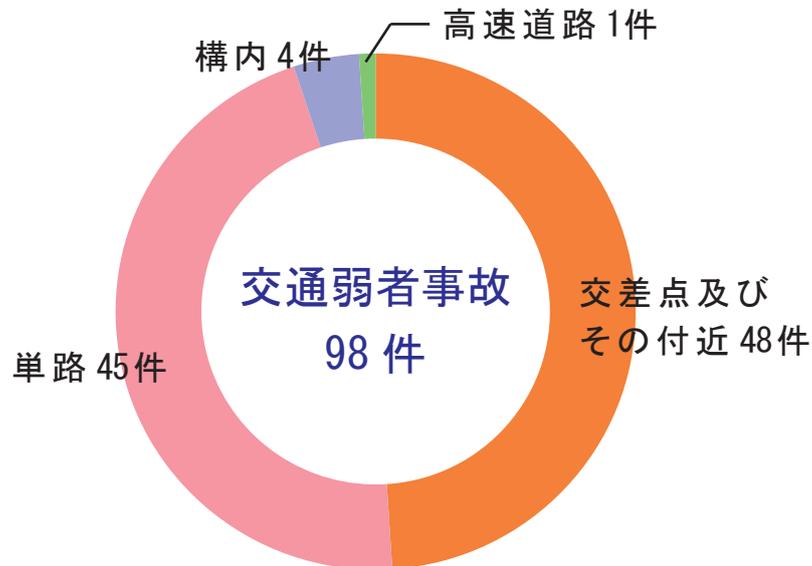
3. 後退時もコメンタリー運転の実践

必ず下車確認「障害物なし」、バック開始時「後方注意よし」などと声に出して、事故防止を徹底するという意識を強く持ちましょう。

(4) 交通弱者を被害者とする事故の実態 (対人共済)

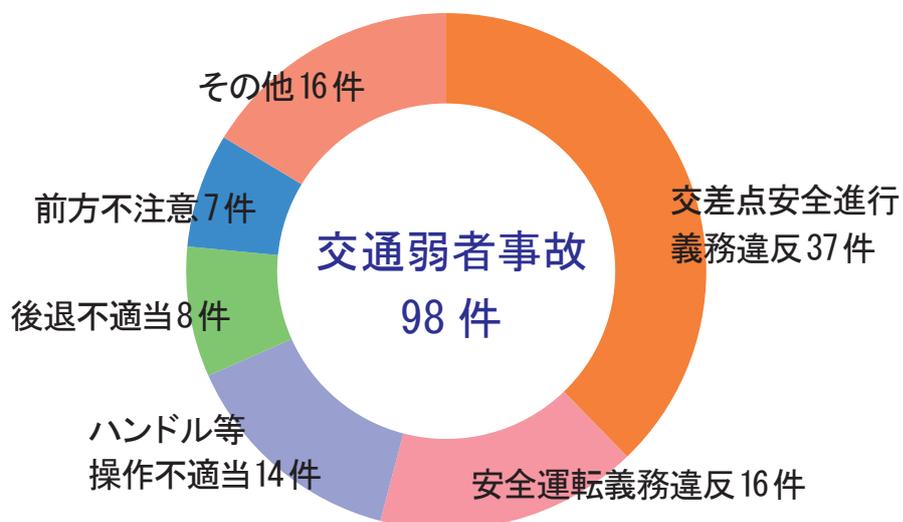
① 交通弱者との道路形状別事故状況

交通弱者(歩行者・自転車・二輪車)を被害者とする事故98件のうち、49.0%(48件)が交差点及びその付近で発生しています。



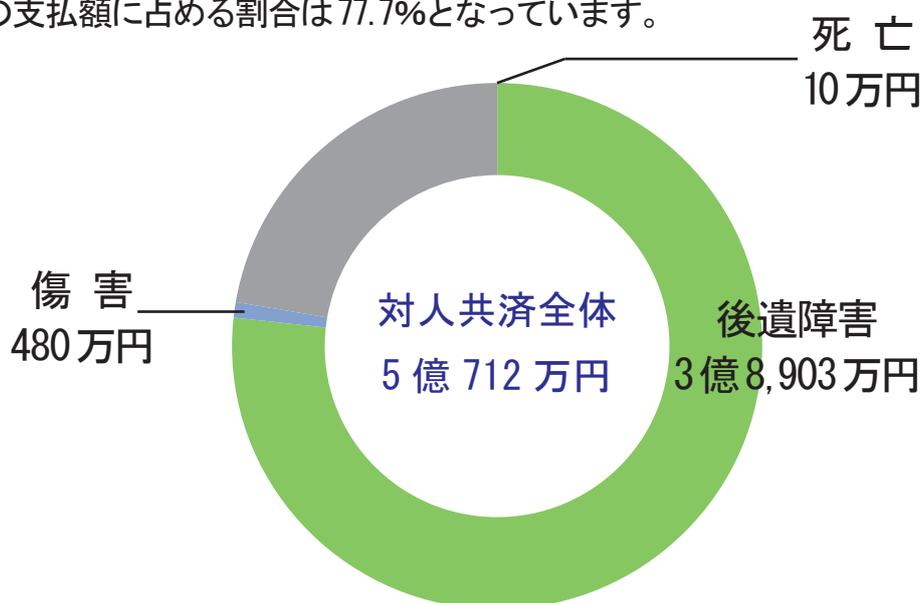
② 交通弱者との原因別事故状況

交通弱者との原因別では、交差点を通過する際、他の車両や歩行者への安全確認を怠ったことによる交差点安全進行義務違反が37.8%(37件)と多く、安全運転義務違反やハンドル等操作不適當によるものも多く占めています。



③ 交通弱者被害者態様別（死亡・後遺障害・傷害）の支払共済金

2020年度の交通弱者に対する支払共済金は死亡事故に対して10万円、後遺障害に対して3億8,903万円、傷害に対して480万円で総額3億9,393万円となり、対人共済全体の支払額に占める割合は77.7%となっています。



④ 交通弱者年齢層と事故発生場所

交通弱者事故件数は98件で、被害者数は105人となっています。

発生場所では、交差点及びその付近が約半数を占め、その中で被害者年齢層別では、65歳以上が最も多くなっています。

(人)

年 齢	場 所					合 計
	交差点及びその付近	単 路	構 内	高速道路		
6歳以下	2	3	0	0	5	
7～12歳	3	0	0	0	3	
13～15歳	0	0	0	0	0	
16～19歳	4	3	0	0	7	
20～29歳	7	11	0	0	18	
30～39歳	2	10	0	0	12	
40～49歳	11	5	0	1	17	
50～59歳	6	7	2	0	15	
60～64歳	1	1	1	0	3	
65歳以上	16	8	1	0	25	
合 計	52	48	4	1	105	

⑤ 交通弱者被害者類型・態様別

被害者類型・態様別では、自転車が46件と最も多く発生し、全体に占める割合も43.8%となっています。

(人)

区分 被害者態様	交通弱者			合計
	歩行者	自転車	二輪車	
死亡	1	0	0	1
後遺障害	4	8	6	18
傷害	17	38	31	86
合計	22	46	37	105

交通弱者との事故防止のワンポイントアドバイス

交通弱者との事故は、「交差点安全進行義務違反」・「ハンドル等操作不適當」・「安全運転義務違反」が主な原因で発生しています。

1. 周囲の安全確認の徹底

交通弱者との事故は、後遺障害など重大事故につながりやすいため、交差点通行時は減速し、特に右左折時は周囲の安全確認を確実に言い走行してください。

2. 生活道路の漫然運転による横断歩行者に注意

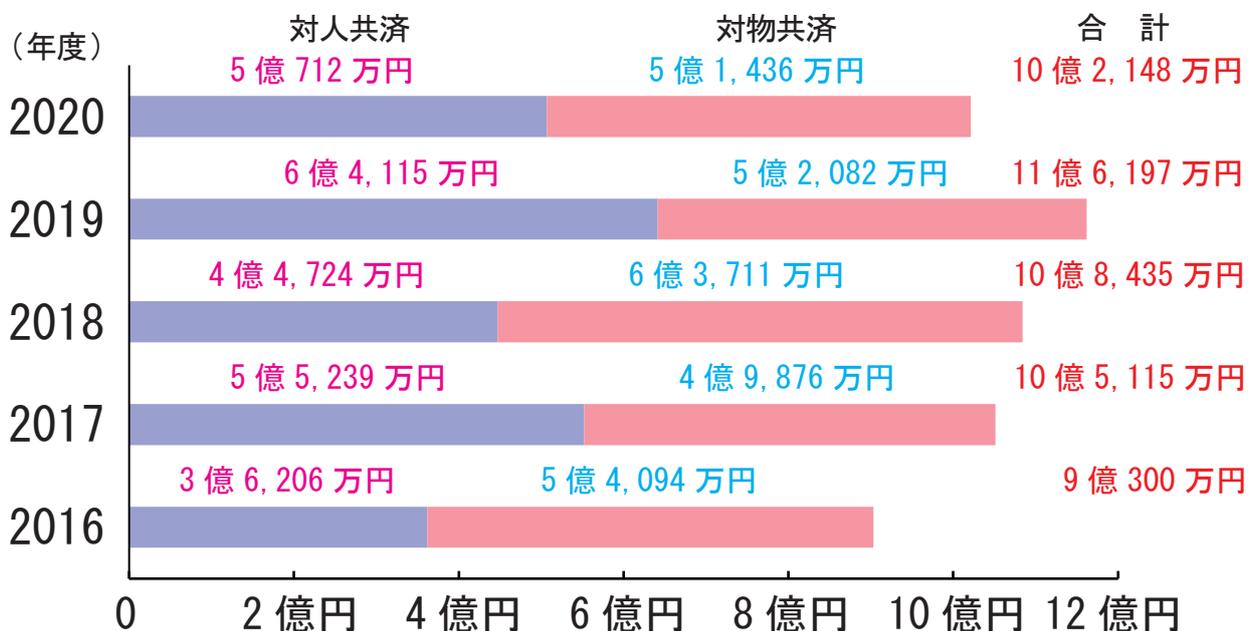
人通りの少ない生活道路では、横断歩道のない場所での高齢者の横断や、駐車車両の陰からの子どもの飛び出し等、漫然と運転していると発見が遅れて歩行者事故が発生しますので、閑散な生活道路での注意を徹底しましょう。

3. コメンタリー運転の実践で事故防止

「歩行者停止」・「自転車停止」・「二輪車注意」などと声を出して、危険と思われる対象を正確に把握し、認知ミスを防ぎましょう。

4. 過去5年間ににおける発生事故に係る支払共済金

2020年度の対人・対物共済の支払共済金は10億2,148万円で、前年度と比較して1億4,049万円減少しています。

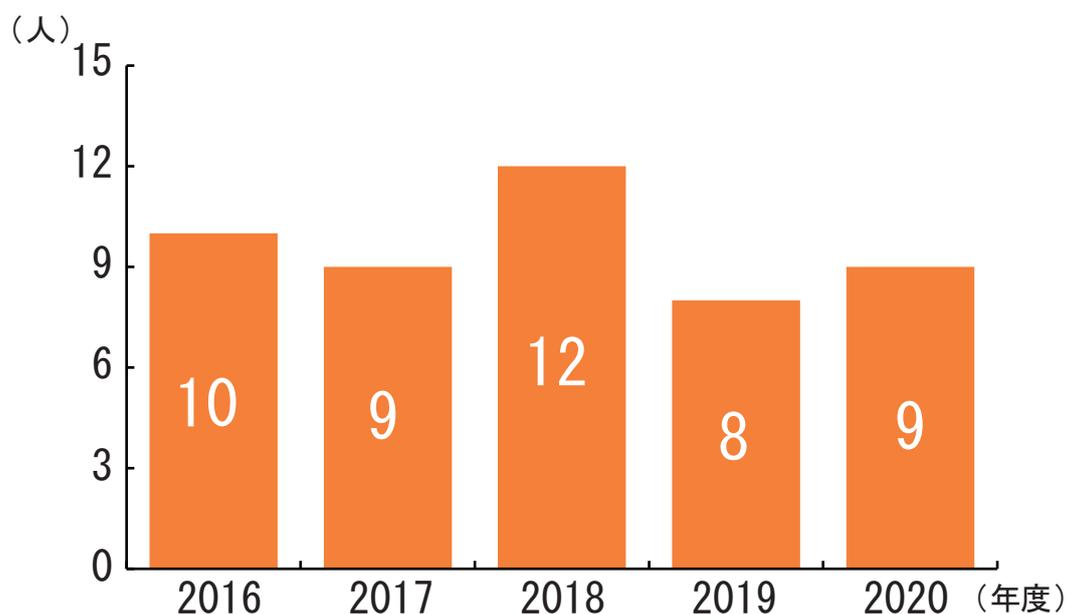


5. 過去5年間ににおける高額賠償事案の事故発生概況

(1) 対人共済

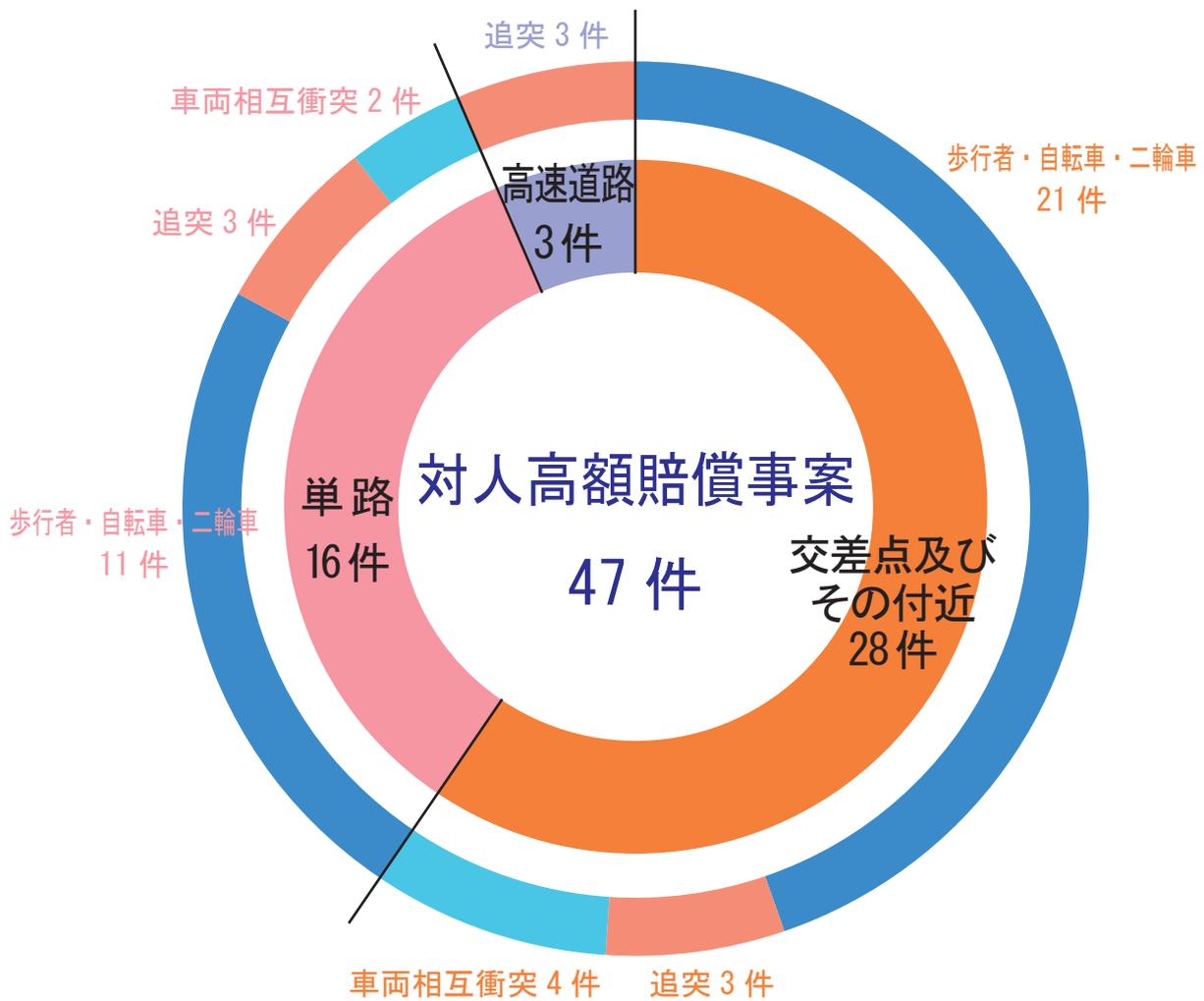
① 高額賠償事案(1,000万円以上)の事故発生状況

2020年度における高額賠償事案の被害者人数は、9人となりました。



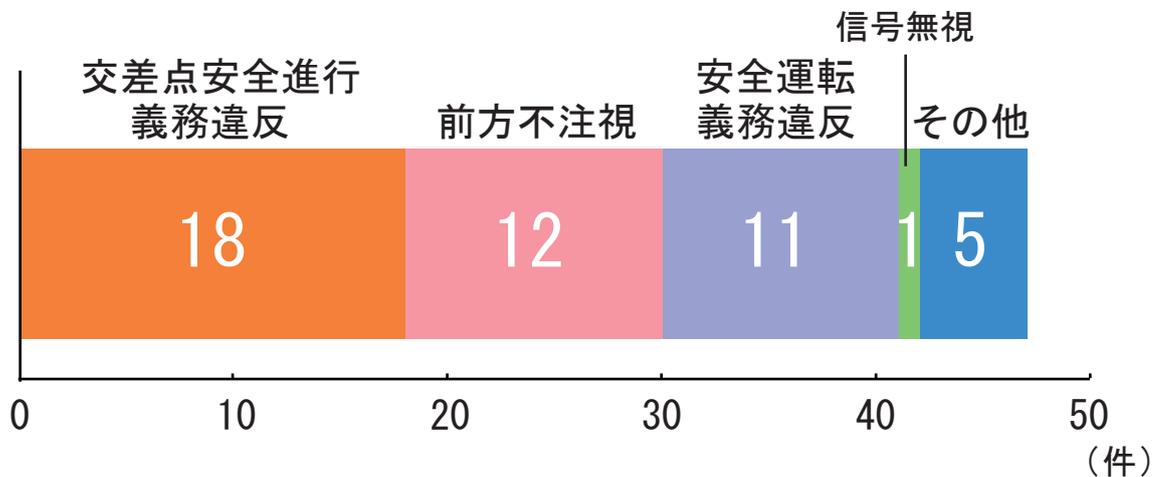
② 道路形状別の事故発生状況

道路形状別では、交差点及びその付近で28件、単路で16件発生しており、その多くは交通弱者（歩行者・自転車・二輪車）との事故が占めています。



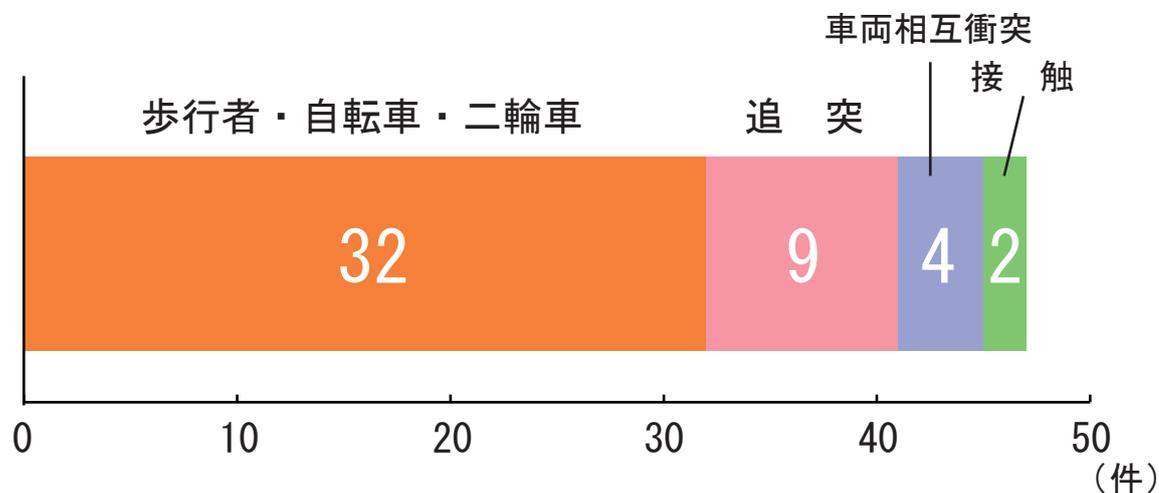
③ 原因別の事故発生状況

原因別では、交差点及びその付近での交差点安全進行義務違反による事故が18件と最も多くなっています。



④ 類型別の事故発生状況

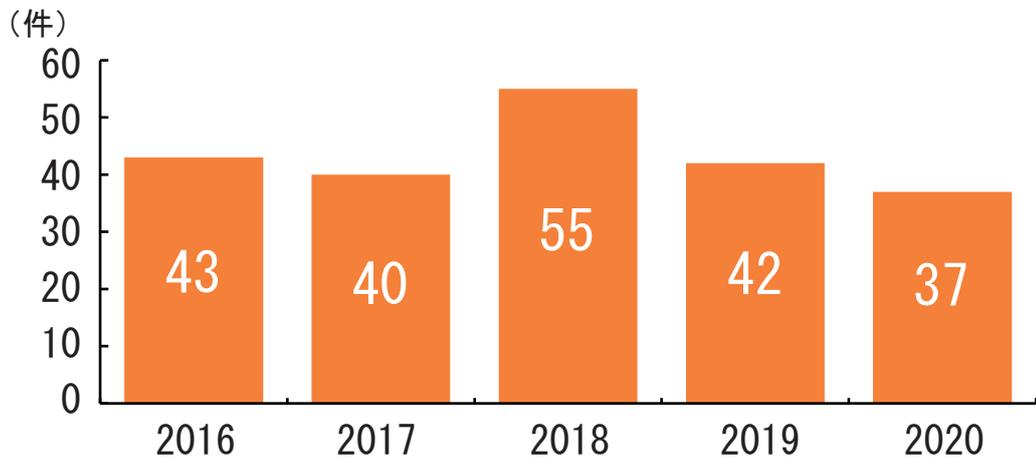
類型別では、交通弱者（歩行者・自転車・二輪車）との事故が68.1%を占めています。



(2) 対物共済

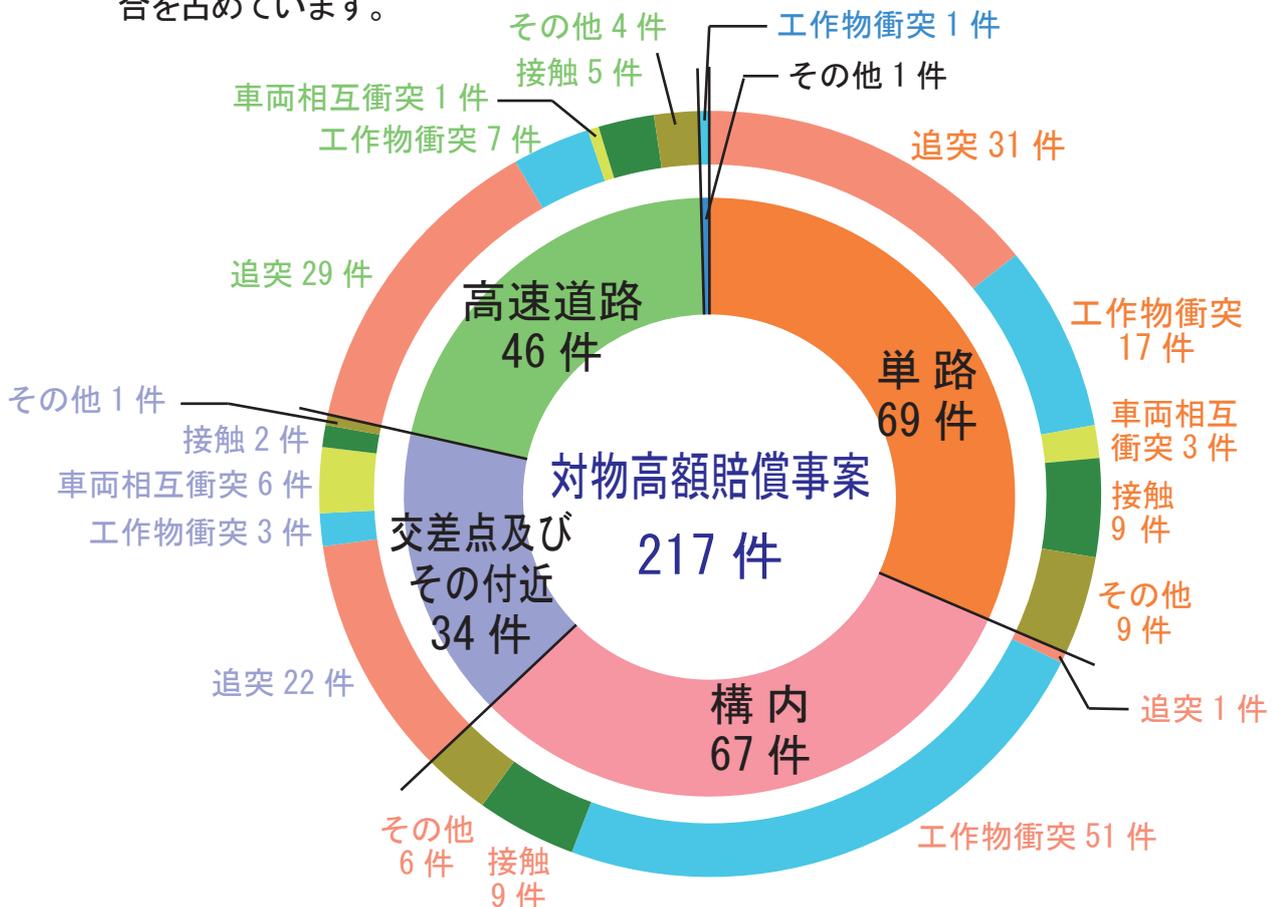
① 高額賠償事案 (200万円以上) の事故発生状況

過去5年間における高額賠償事案は217件で、2020年度は37件発生し、前年度より5件の減少となっています。



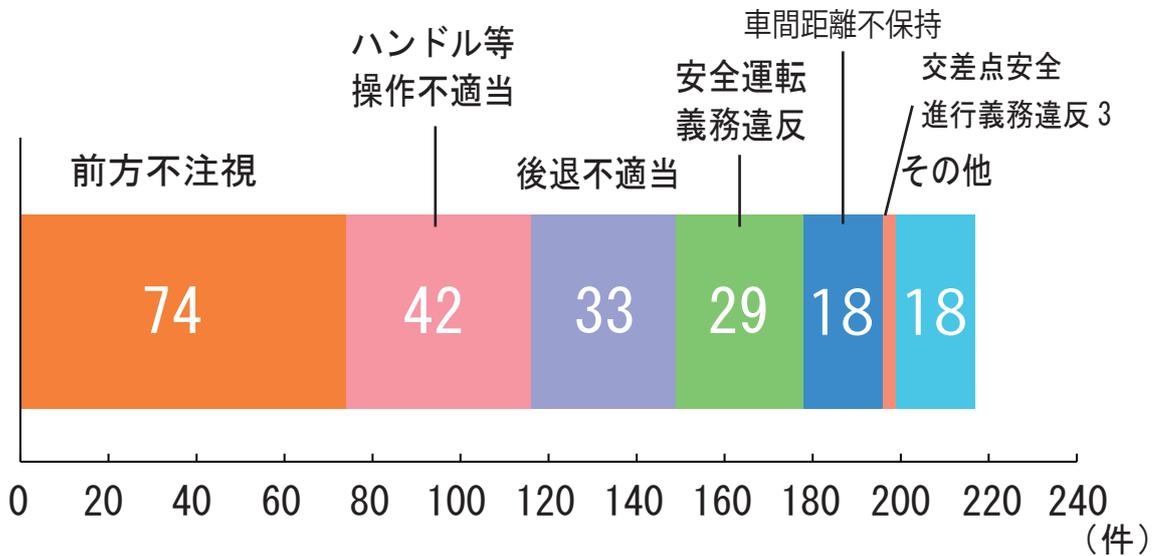
② 道路形状別の事故発生状況

道路形状別では、単路で発生した事故が69件と最も多く、そのうち追突事故44.9% (31件) を占めています。また、構内における工作物との衝突が76.1% (51件) と高い割合を占めています。



③ 原因別の事故発生状況

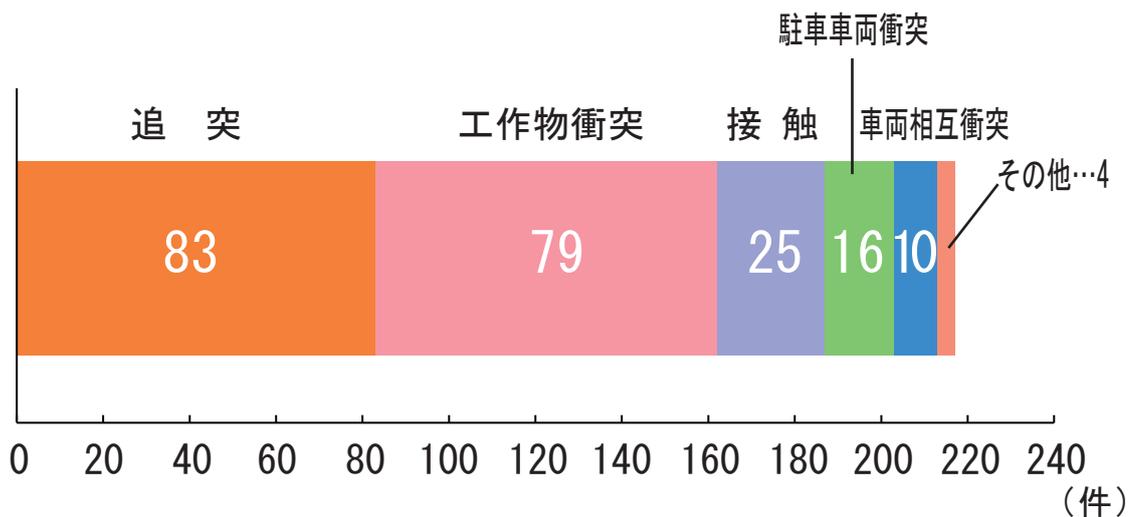
原因別では、前方不注視による事故が74件と最も多く、次いでハンドル等操作不適當、後退不適當が多く発生しています。



④ 類型別の事故発生状況

類型別では、追突事故が83件と最も多く、次いで工作物衝突事故が79件と多く発生しています。

近年では、工作物衝突事故が高額賠償事案となる傾向にあります。



6. 過去5年間ににおける運転者年齢層別の事故発生状況（全事故）

(1) 運転者年齢層別の道路形状別事故発生状況

道路形状別の事故では、30歳代以降から構内での事故件数が増えています。

（件）

区分	年 齢	19歳以下	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65歳以上	不 明	合 計
交差点及びその付近		16	200	265	707	648	235	231	1	2,303
単 路		15	240	303	802	749	256	330	8	2,703
高速道路		3	89	107	280	223	66	69	2	839
構 内		10	163	323	870	891	325	415	21	3,018
そ の 他		0	0	4	7	5	3	2	1	22
合 計		44	692	1,002	2,666	2,516	885	1,047	33	8,885

(2) 運転者年齢層別の類型別事故発生状況

類型別の事故では、29歳以下は追突、30歳以上になると工作物への衝突が最も多くなっています。

（件）

事故類型	年 齢	19歳以下	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65歳以上	不 明	合 計
車両相互	追 突	12	183	177	434	365	106	143	1	1,421
	逆 突	1	22	41	111	92	50	47	0	364
	接 触	6	144	214	662	567	195	218	5	2,011
	その他衝突	7	60	104	252	238	84	70	4	819
車両単独	駐車車両衝突	6	61	109	240	284	112	175	1	988
	工作物衝突	9	167	274	718	742	247	320	8	2,485
	その他	0	7	20	50	43	10	12	13	155
歩行者・自転車・二輪車		3	48	63	199	185	81	62	1	642
踏切・その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計		44	692	1,002	2,666	2,516	885	1,047	33	8,885

(3) 運転者年齢層別の時間帯事故発生状況

時間帯別では、10時から12時の時間帯に事故が最も多く発生しており、30歳代以降幅広い層で同じ時間帯に事故が発生しています。

(件)

年 齢 時間帯	19歳以下	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65歳以上	不 明	合 計
0~2	0	4	16	52	44	19	13	4	152
2~4	0	11	17	71	72	17	14	3	205
4~6	0	28	47	128	117	40	45	3	408
6~8	11	84	106	318	322	93	109	5	1,048
8~10	6	150	173	488	427	161	199	3	1,607
10~12	5	133	241	487	509	187	227	8	1,797
12~14	10	93	132	380	350	135	168	3	1,271
14~16	7	85	98	308	309	108	116	3	1,034
16~18	5	58	81	201	180	63	88	0	676
18~20	0	27	48	104	88	30	39	0	336
20~22	0	13	23	67	53	15	20	0	191
22~24	0	6	20	62	45	17	9	1	160
合 計	44	692	1,002	2,666	2,516	885	1,047	33	8,885

高齢運転者への事故防止のワンポイントアドバイス

一般的に、加齢による身体機能の低下に伴って、周囲への注意不足による認知の遅れ、判断の誤り、不適切なハンドルやブレーキ操作による操作上の誤りなどが起こりやすくなり、事故につながる恐れがあります。65歳以上を対象とした適齢診断の結果などを参考にいただき、事業主および管理者の皆様におかれましては、運転者の安全を守るため、社内での安全運転指導をお願いいたします。

1. コメンタリー運転の実践

加齢に伴い、若い時より発見が遅れがちになります。目に見える危険や隠れている危険を積極的に見つけ出す意識を常に持ち、コメンタリー運転を実践し、周囲への注意喚起を徹底しましょう。

2. 「注意力」・「集中力」の維持

センターラインを踏んだら要注意。「注意力」・「集中力」が低下している可能性があります。悪化すれば、対向車との衝突事故を起こす可能性があるため、より一層の「注意力」・「集中力」への意識を高め安全運転に努めましょう。

3. 過信せず安全確認をしっかりと

慣れた道でも過信せず、慎重な運転を心掛け、「ここは大丈夫だろう」から「ここは危ないかもしれない」といった意識を持って、常に安全確認を忘れないようにしましょう。

4. 健康管理の徹底

自らの健康状態を正しく認識し、疲労を蓄積しないよう心掛けるとともに、プロ意識をもって日々安全な運行が行えるよう自己管理を行ってください。

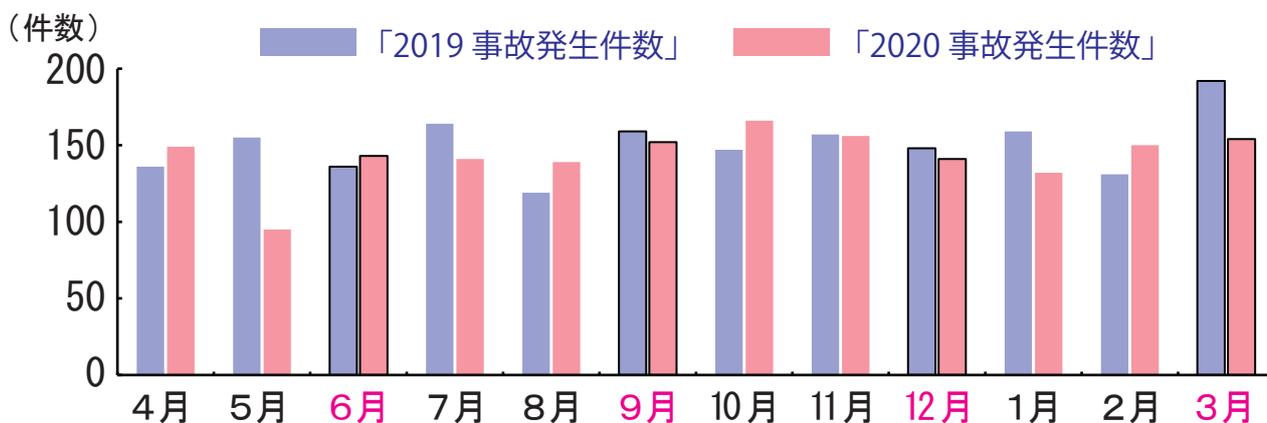
7. 2020年度交通事故防止強化月の事故発生状況

2020年度は6月、9月、12月、3月の4か月を交通事故防止強化月に設定し、事故防止機器の利用促進、安全情報の配信などを行い、事故防止に取り組みました。

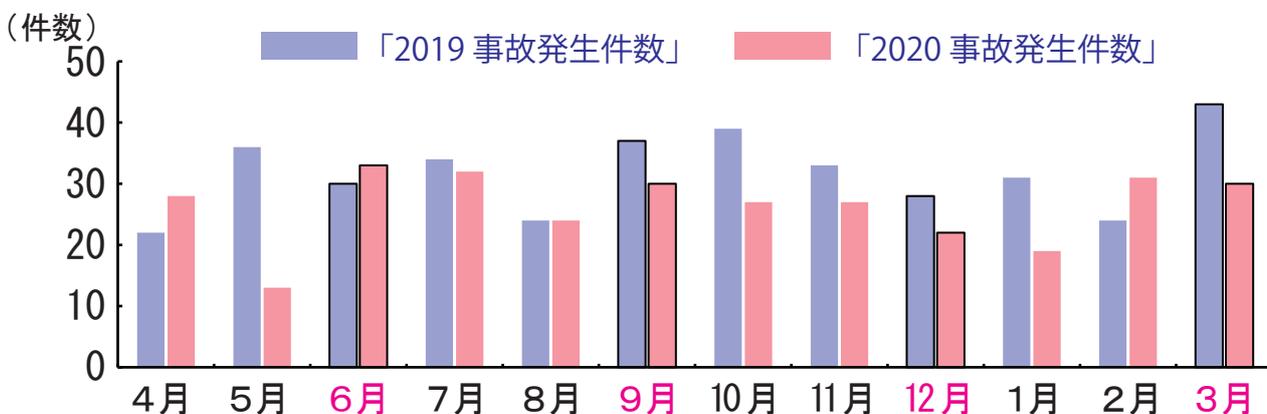
(1) 月別事故発生件数

① 全事故

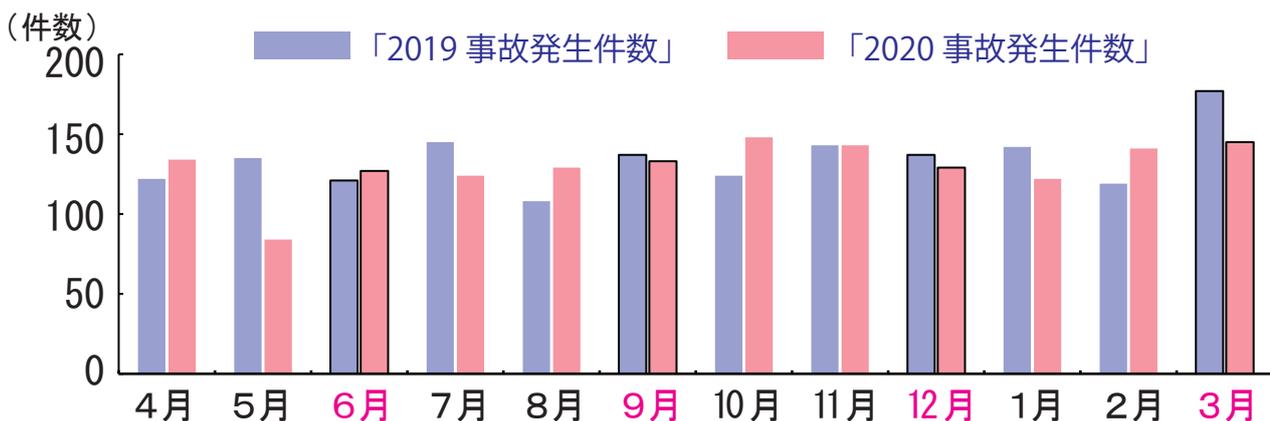
強化月（6月、9月、12月、3月）の4か月間では、前年度比で45件の減少となりました。各強化月においては、6月のみ増加し、その他の強化月は減少となりました。



② 対人共済

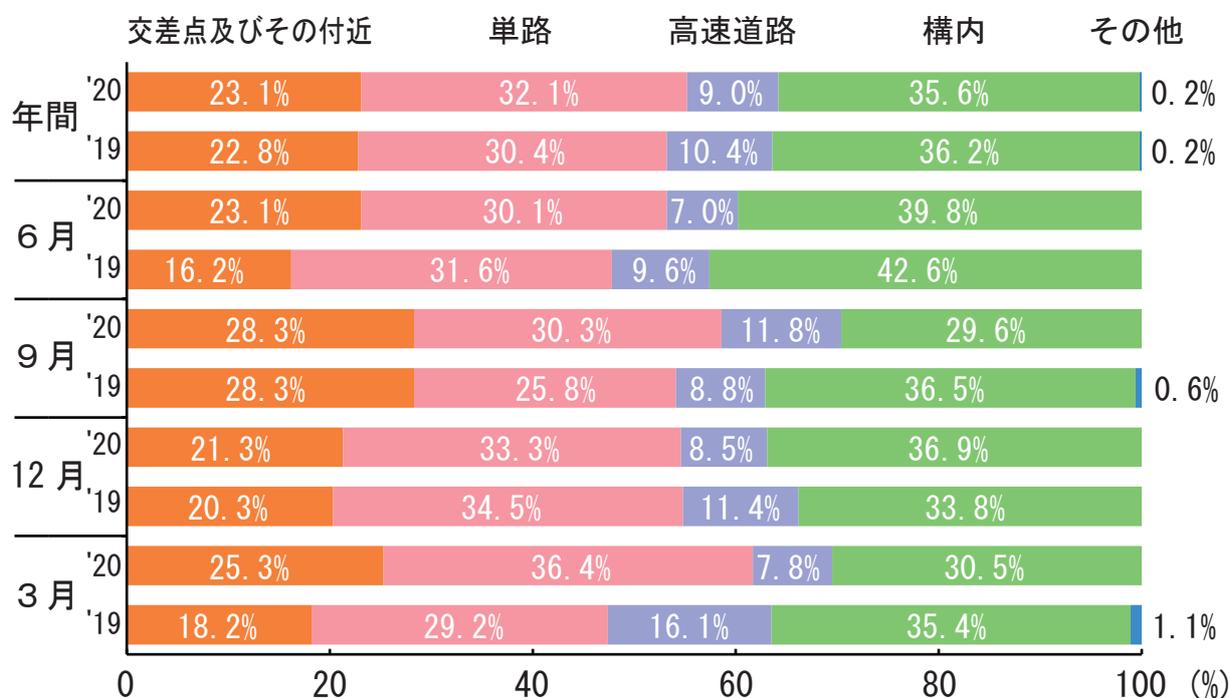


③ 対物共済



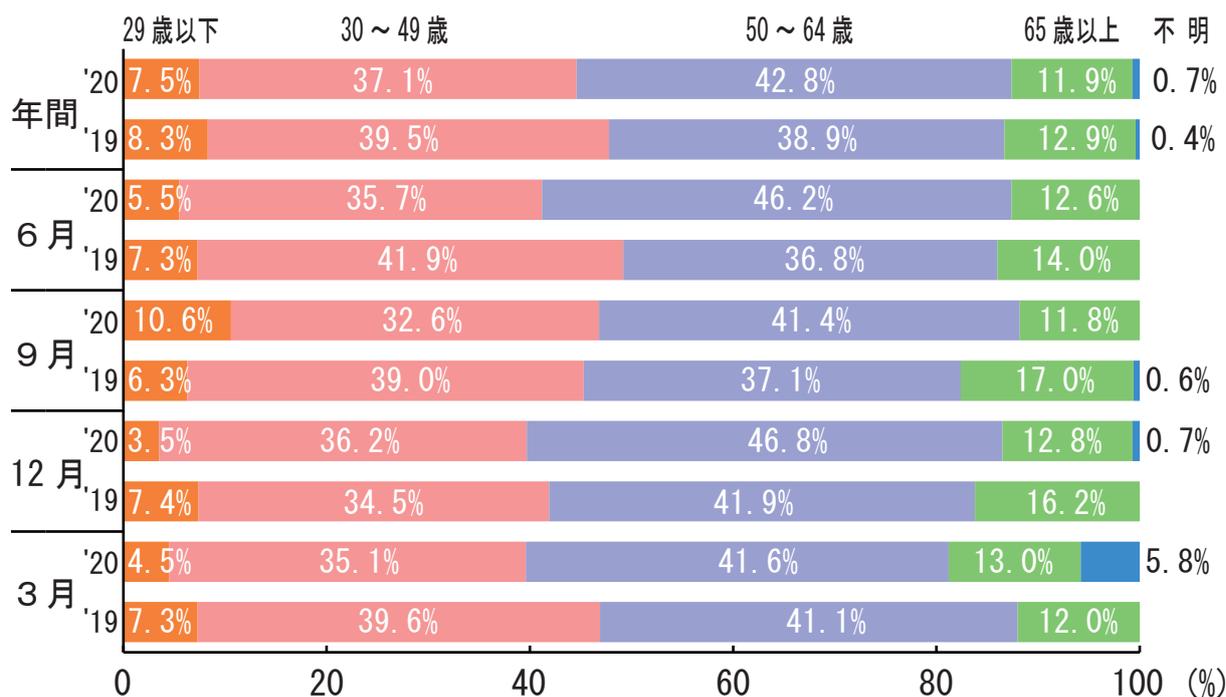
(2) 道路形状別事故発生割合（全事故）

道路形状別では、構内が12月を除くすべての強化月で減少し、交差点及びその付近が9月を除くすべての強化月で増加しました。



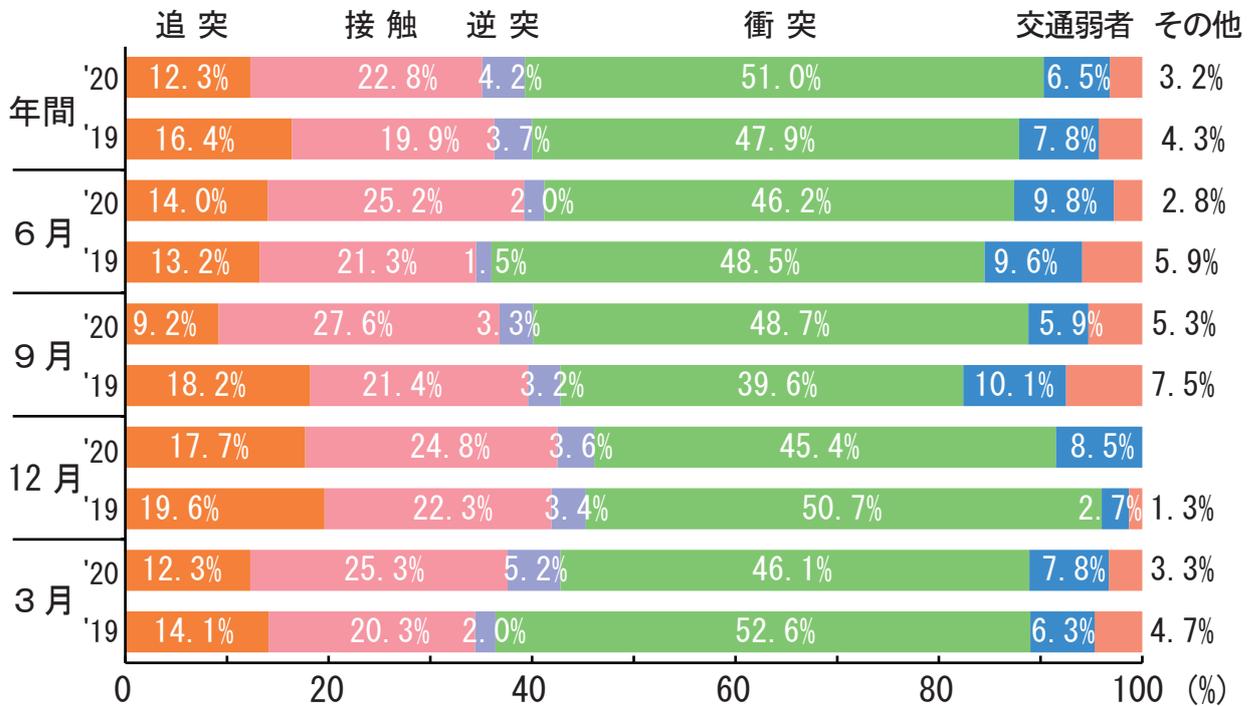
(3) 運転者年齢層別事故発生割合（全事故）

運転者年齢層別では、65歳以上の年齢層において、3月を除くすべての強化月で減少し、50歳から64歳の年齢層においては、すべての強化月で増加しました。



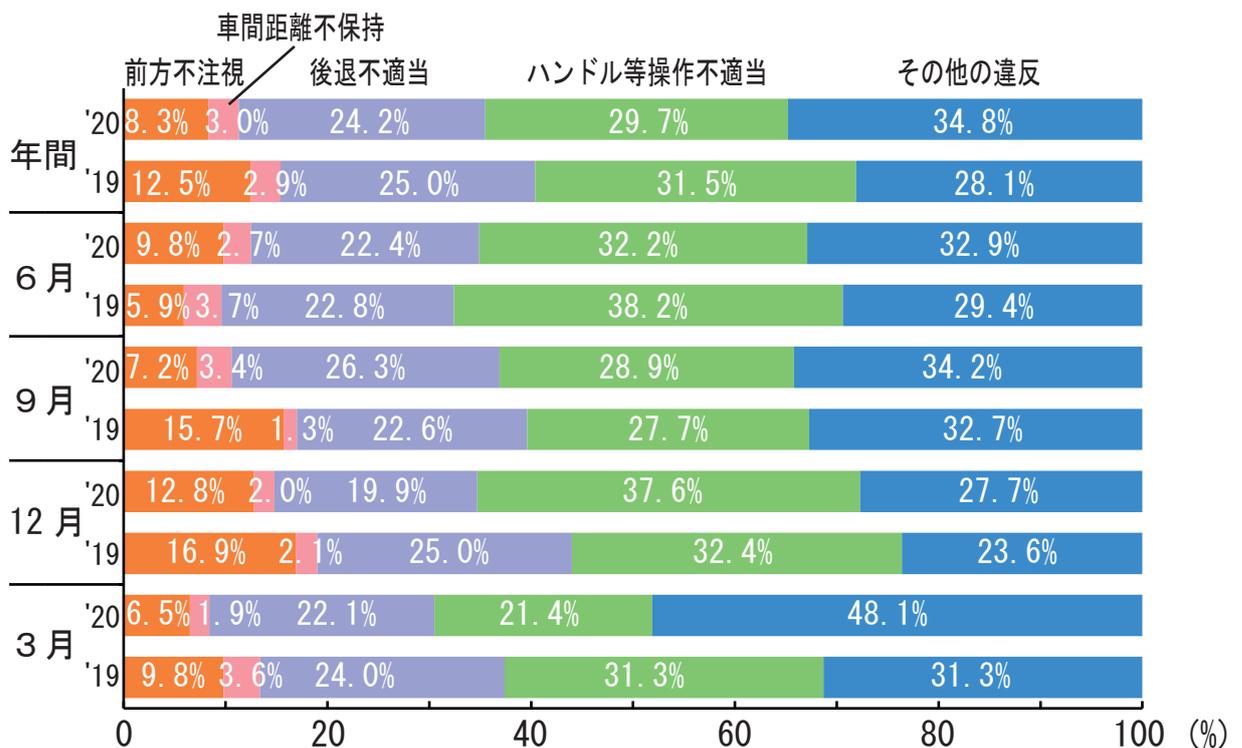
(4) 類型別事故発生割合（全事故）

類型別では、追突は6月を除くすべての強化月で減少し、接触はすべての強化月で増加、交通弱者は9月を除くすべての強化月において増加しました。



(5) 原因別事故発生割合（全事故）

原因別では、後退不適當は9月を除くすべての強化月において減少し、ハンドル等操作不適當は9月、12月の強化月において増加しました。



8. 交協連傘下15組合の2020年度事故発生状況

交協連（全国トラック交通共済協同組合連合会）は、全国15のトラック交通共済協同組合を会員とする団体です。

(1) 事故発生状況（対人・対物事故）

共済種目別		区 分			
		神奈川 (件)	15組合合計 (件)	15組合平均 (件)	神奈川の割合 (%)
対人	発生件数(件)	316	4,540	303	7.0
	死者数(人)	1	68	4.5	1.5
	傷者数(人)	384	5,675	378	6.8
	100両当りの事故件数	1.86	—	1.45	0.41(平均との差)
対物	発生件数(件)	1,559	26,060	1,737	6.0
	100両当りの事故件数	11.27	—	9.12	2.15(平均との差)

(2) 原因別事故発生状況（対人事故）

事故原因別		区 分			
		神奈川 (件)	神奈川の構成比 (%)	15組合合計 (件)	15組合の構成比 (%)
前方不注視		84	26.6	1,862	41.0
車間距離不保持		23	7.3	358	7.9
後退不適當		24	7.6	243	5.4
ハンドル等操作不適當		58	18.4	523	11.5
徐行違反				6	0.1
左折違反				158	3.5
右折違反				148	3.3
一時停止違反		1	0.3	34	0.7
最高速度違反				1	0.02
優先通行違反				14	0.3
追い越し違反				54	1.2
横断（転回）違反				16	0.4
信号無視		2	0.6	95	2.1
酒酔い・酒気帯び				2	0.04
安全運転義務違反（安全速度）				22	0.5
安全運転義務違反（その他）		54	17.1	595	13.1
交差点安全進行義務違反		48	15.2	240	5.3
不明・その他の違反		22	6.9	169	3.7
合 計		316	100	4,540	100

(3) 類型別事故発生状況 (対人事故)

区 分		神奈川	神奈川の構成比	15組合合計	15組合の構成比
類型別		(件)	(%)	(件)	(%)
車 両	追突(走行中)	15	4.7	332	7.3
	追突(停止中)	112	35.4	1,643	36.2
	正面衝突	2	0.7	76	1.8
	側面衝突	4	1.3	320	7.0
	接 触	85	26.9	1,043	23.0
	その他	25	7.9	273	6.0
	小 計	243	76.9	3,687	81.2
	(うち 自動二輪・原付)	34	10.8	296	6.5
歩行者	20	6.3	237	5.2	
自転車	44	13.9	487	10.7	
単独(その他)	9	2.9	129	2.8	
合 計	316	100	4,540	100	

(4) 運転者年齢層別事故発生状況 (対人事故)

区 分		神奈川	神奈川の構成比	15組合合計	15組合の構成比
年 齢		(件)	(%)	(件)	(%)
20歳未満		1	0.3	31	0.7
20～24歳		16	5.1	191	4.2
25～29歳		15	4.7	234	5.2
30～34歳		17	5.4	237	5.2
35～39歳		17	5.4	299	6.6
40～44歳		33	10.4	430	9.5
45～49歳		54	17.1	719	15.8
50～54歳		57	18.0	753	16.6
55～59歳		34	10.8	536	11.8
60～64歳		38	12.0	474	10.4
65～69歳		17	5.4	281	6.2
70歳以上		17	5.4	355	7.8
合 計		316	100	4,540	100

(引用: 令和2年度 交通共済統計年報データ)



神奈川県自動車交通共済協同組合

〒222-8582

横浜市港北区新横浜二丁目 13 番地 4

TEL. 045-475-2134 FAX. 045-475-2144

HP : <https://shinkokyo.or.jp>